学校番号	3018

令和2年度　公民　科

教科	公民	科目	倫理	単位数	（　1　）単位	年次	（　3　）年次 ※前期実施
使用教科書	高等学校　新倫理　新訂版（清水書院）						
副教材等	テオーリア　最新倫理資料集　新版初訂（第一学習社） センター試験対策　ステップアップ倫理（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「倫理」の「倫」とは「なかま」の意であり、人間関係やその関係内の人々のことを示し、「理」とは「ことわり」「すじみち」などの意であり、よって「倫理」とは「人間および人間関係における在り方」と定義されます。したがって、「倫理」という科目の究極のねらいは、「人間とは何か」「人間としていかに生きるべきか」という課題の探究と、自身の世界観・人生観の形成ということになりますが、決して堅苦しいイメージを持たず、先哲の思想や諸学説をヒントにクラス内での相互的なやりとりなどを通して、ともに複雑化する現代社会において私たちはどのように生きていくべきか、ということを一緒に考えていきたいと思います。

2　学習の到達目標

・人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基き、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解を深めさせる。
・人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
・先人たちの哲学や思想に触れ、これらを踏まえた上で、現代社会の諸問題について多面的・多角的に考察することのできる実践的能力を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見出し、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格形成に生かす知識として身に付けている。
評価方法	ノート・プリントの提出状況 学習状況の観察	問題演習プリントの提出 レポート・ワークシートの提出と内容状況 学習状況の観察	問題演習プリントの提出 定期考査の結果	問題演習プリントの提出と内容状況 定期考査の結果

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期中間	西洋近現代の思想	・ルネサンスと宗教改革 ・科学革命と自然観 ・社会契約説 ・ドイツ観念論 ・功利主義 ・プラグマティズム ・社会主義思想 ・実存主義 ・現代の思想	○ ○ 	 ○ ○ ○ ○ 	 ○ 	 ○ ○	a:西洋近現代の思想に対して高い関心を示しており、これらの思想を現代社会や自己の課題解決に役立てるべく、意欲的に探究している。 b:現代に生きる人間が直面する諸課題について、ルネサンス以後、現代に至る西洋思想の形成と展開を手掛かりとして多面的・多角的に考察し、倫理的な見方や考え方を身に付け、他者と共に生きる自己の生き方にどうかかわるかを広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。また、それらを追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 c:ルネサンス以後、現代に至る西洋思想の形成と展開に関して、資料集などを手掛かりに探索し、先哲などの考え方や生き方を自らの思索を深めるために活用している。 d:先人たちがその時代時代で見出した諸課題を、現代社会とその中で生きる自己の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。	定期考査の結果 ワークシート・ノートの提出 問題演習プリントの提出 レポートの提出 学習状況の観察
前期期末	日本の思想	・日本固有の思想 ・日本仏教の受容と展開 ・日本儒学の展開	○ 	 ○ 	 ○ ○	 ○	a:日本の思想に対して高い関心を示しており、これらの思想を現代社会や自己の課題解決に役立てるべく、意欲的に探究している。 b:古典や生活慣習などをもとに、日本の風土や伝統について考察し、仏教や儒教、西洋思想などの外来思想の受容と吸収について学習しながら、日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について多面的・多角的に考察し、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について探究するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。また、それらを追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 c:日本の風土や伝統、外来思想の受容などに関して、資料集などを手掛かりに探索し、日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質についての理解を深め、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について探究する学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用している。 d:我々が暮らす日本で展開された思想の数々を、現代社会とその中で生きる自己の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。	定期考査の結果 ワークシート・ノートの提出 問題演習プリントの提出 レポートの提出 学習状況の観察

※　表中の観点について　　a:　関心・意欲・態度　　b:　思考・判断・表現

c:　資料活用の技能　　d:　知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。